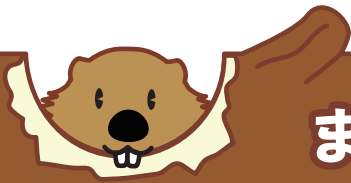


発見!!



まちの EAGER BEAVER



市ゆかりのイーガービーバー（熱心ながんばりやさん）を紹介します。



ベトナムの民族衣装、アオザイをまとうクイさん



ベトナムの中秋節イベントで紙芝居を披露する様子

ベトナムと新居浜の架け橋に

レー・ティ・フオン・クイさん (25) 国際交流員

日本のアニメやマンガに魅了され、中学生の頃、日本語の勉強をスタート。「日本で働きたい」という夢をかなえ、令和6年8月から本市の国際交流員 (CIR) として活動しています。

イベント企画や国際理解講座の実施、外国人住民への生活支援など、CIRの活動は多岐にわたります。中でも、旧正月「テト」や日本の十五夜にあたる「中秋節」など、ベトナムの伝統行事を通じた国際交流に注力。参加した人たちが笑顔になり、楽しい時間を共有できるよう、工夫を凝らしています。

やりがいを感じるのは、イベントや講座の参加者から「ベトナムへの理解が深まった」と温かい声をかけてもらった時。プレッシャーを感じることもありますが、そんなときは同じ境遇で頑張っているCIRの先輩に相談し、アドバイスをもらっています。

今後は、ベトナムの伝統的な弦楽器「ダン・グエット」を披露したいと意気込むクイさん。「豊かな自然と工業都市が共存する新居浜の魅力を発信しながら、このまちで暮らす日本人と外国人が、お互いの文化を尊重し合える関係づくりに貢献していきたい」と情熱を燃やしています。

子どもやお年寄りに笑顔届ける

新居浜高専 奇術部 (37人)

創立は2003年秋。現在プロマジシャンとして活躍する黒川遼さんら、当時の1年生4人が奇術愛好会として結成しました。創立以来、高齢者施設や児童センターなど市内福祉施設を訪れ、さまざまな道具を使った妙技で、子どもやお年寄りを喜ばせています。

「楽しく活動」が部の方針。好きな日に集まり、和気あいあいと活動しています。創立当初はマジック中心でしたが、近年はボールやリングを投げたり操ったりする「ジャグリング」がメイン。それぞれ好きな道具を選び、先輩に教わったり、YouTubeを見たりしながら、日々技の習得に励んでいます。

福祉施設での発表は、部員のモチベーションアップにもつながっているそう。3年の竹島菜乃子部長(17)は「子どもたちは目をキラキラさせながら見てくれるし、お年寄りも温かく見守ってくれる。喜んでくれるのがうれしい」と声を弾ませます。このボランティア活動は高く評価され、毎年のように、市の青少年善行表彰を受賞しています。

7月22日には、高専近くにある宗像神社の夏越祭で発表する予定。これからもたくさんの人に、笑顔と感動を届けます。



新居浜高専奇術部のメンバー



児童センターでのボランティア発表